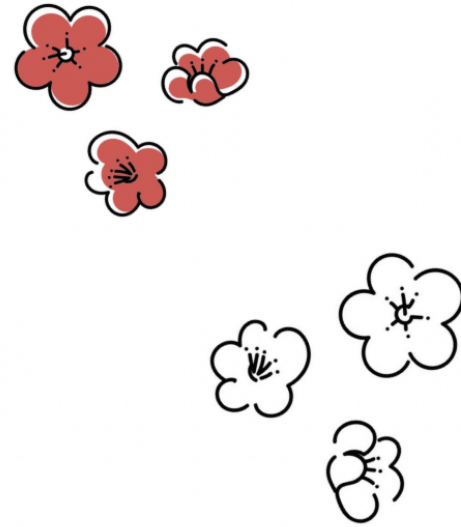


株式会社JR大分シティ 御中



# 「もしも切符が花だったら。」

## 企画ご提案書



令和3年12月吉日  
日本文理大学 工学部 建築学科 3年  
近藤研究室 金野芽依 存

### 企画・提案書

作成者：金野 芽依



下記のテーマにつきまして、企画・提案いたします。

記

## 「もしも切符が花だったら。」

#### 提案の目的・背景

現在、新型コロナウイルスの影響で、花が欠かせない、例えば卒業式や結婚式などのイベントの中止が相次ぎ、多くの花卉が出荷できずに廃棄されています。そこで、フラワーロスを少しでも減らし、日常に花が溢れる世界を取り戻したいという思いでこの企画を考えました。



花の代金に運賃を含めることで、花を手にした旅客が乗車し、エリア内の駅構内や電車内に素敵な光景が現れると思います。また、鉄道への注目度が高まり、さらなる集客に繋がることが期待されます。

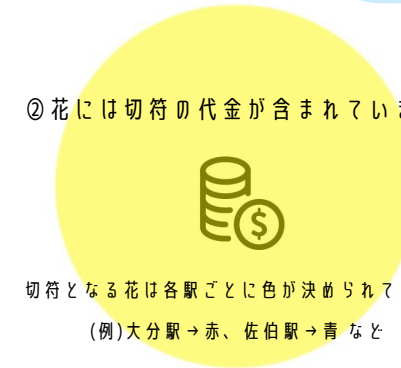
#### 提案内容・詳細

もちろん、家庭へお持ち帰りになることも可能です。

①改札口付近に花屋を設置します。



②花には切符の代金が含まれています。



切符となる花は各駅ごとに色が決められています。  
(例)大分駅→赤、佐伯駅→青など

③降車後、使用済みの花は駅で回収することもできます。



切符として利用された後の花は、また別の旅客の切符として再利用することもできます。

切符を花にすることで、限りある資源を大切にし、生産者の方が愛情を込めて育てた花を最後まで楽しむことができます。また、花を持つ人で溢れる電車内の風景は人々の心に彩りを与え、JRで移動する時間を特別なものにします。

資料は別途添付しております。

以上

# もしも切符が花だったら。

現在問題となっているフラワーロスを解決するため、駅の改札口付近に花屋を取り入れた。ここで買った花は切符として利用され、利用後の花はまた別の人の切符となり新たな場所へ向かう。切符を花にすることで限りある資源を大切にし、生産者の方が愛情を込めて育てた花を最後まで楽しむことができる。そして、日常の一部であった駅に彩りが加えられ、街や人は、花と共に幸せで溢れる。

一日中変化する車内の風景は心にも彩りを与え  
移動時間を特別なものにする

切符として利用された後の花は  
自由に持ち帰ることもできる

花の香りに包まれながら電車を待つ

切符となる花は各駅ごとに  
色が決められている